

＜特集＞第47回環境保全・公害防止研究発表会

第47回環境保全・公害防止研究発表会の概要

川崎市環境総合研究所

当初、第47回環境保全・公害防止研究発表会につきましては、令和2年11月19日（木）、20日（金）の両日に川崎市スポーツ・文化総合センター（カルッツかわさき）において開催する予定でしたが、全国的な新型コロナウイルス感染拡大の状況をふまえ、令和2年7月に全国環境研協議会会員機関あて発表会の開催についてのアンケートを実施した結果、感染防止の観点から、書面にて開催することとなりました。

研究発表に関しては全国環境研協議会の会員等から43題の演題応募があり、大気（12題）、化学物質（4題）、生物（4題）、水環境（16題）、放射線（4題）、気候変動（3題）の研究発表を書面により行い、全国環境研協議会会員機関等70機関から参加をいただきました。

1. 開催方法について

例年であれば年度当初から開催に向けての準備が始めるところでしたが、川崎市を含む首都圏では令和2年4月7日から5月25日までの間、国の緊急事態宣言が発令されており、イベント等の開催についても不要不急を要するものでないものについては当面の間中止または延期という判断となっております。

緊急事態宣言解除後についても次の第2波、第3波の到来を危惧する状況は続いており、開催の判断がつかない状況が続いていたため、7月に全国環境研協議会会員機関あて発表会の開催についてのアンケートを実施し、各機関からのご意見をふまえて開催案を作成することとしました。

アンケートでは開催について、通常通り開催、延期、中止、開催方法の変更などの選択肢を用意し、回答をいただきました。アンケートの結果、県外を越えての移動が難しいこと、オンラインによる開催は機材の手配が間に合わないことなどの理由から開催方法の変更（書面での開催）が望ましいという意見が多数を占めたため、今回の発表会は書面開催することとなりました。

大気環境学会等学会発表等でも書面による開催が行わ

れていたため、それらを参考にしつつ、できるだけ、会員間の情報交換・共有が図れるように配慮しました。

また、例年通り冊子での講演要旨を作成することに加え、電子データも会員機関あて提供し、機関内での共有を図っていただきました。

質疑応答についても、講演要旨を送付後、一定期間を設け、各機関からの質問を受け付けた後、各演者あて寄せられた質問への回答を依頼し、回答いただいた内容については質問者のみならず、全会員機関あて情報共有を図りました。

2. 研究発表

研究発表の内容については、以下に概要を示します。

○ I 大気

- 1 高知県における光化学オキシダント濃度の推移
小松 寛卓ほか（高知県衛生環境研究所）
- 2 川崎市内における光化学オキシダント高濃度の解析
沼田 和也ほか（川崎市環境総合研究所）
- 3 岩手県内光化学オキシダント濃度の長期的評価と地域内変動
佐藤 卓ほか（岩手県環境保健研究センター）
- 4 2019年5月における高濃度光化学オキシダント事象について
小原 幸敏ほか（島根県保健環境科学研究所）
- 5 PM_{2.5}用インパクタを付けた4段フィルターパック法による乾性沈着調査について（第2報）
佐々木 博行ほか（新潟県保健環境科学研究所）
- 6 昼夜別観測から得られたPM_{2.5}成分および有機マーカースの特徴
熊谷 貴美代ほか（群馬県衛生環境研究所）
- 7 福井市における2019年秋季のPM_{2.5}成分の周辺環境による特徴について
岡 恭子ほか（福井県衛生環境研究センター）
- 8 酸化エチレン（有害大気汚染物質）測定法の検討
吉田 天平（和歌山県環境衛生研究センター）

- 9 新築庁舎VOC測定室内の有害大気汚染物質（揮発性有機化合物）濃度の経時変化
結城 茜（静岡県環境衛生科学研究所）
- 10 大気中粒子状物質の長期測定と発生源の変遷
船坂 邦弘ほか（大阪市立環境科学研究所）
- 11 LC/MS/MSによる大気中6価クロム化合物測定の試み
野尻 喜好ほか（埼玉県環境科学国際センター）
- 12 パッシブサンプリング法による大気中PCB・ダイオキシン類の測定
永洞 真一郎（北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所）
- Ⅱ化学物質
- 1 ダイオキシン類の抽出操作の改良に関する検討（その2）
安達 収吾ほか（新潟県保健環境科学研究所）
- 2 トリアジン系除草剤シアナジンの分析法と環境調査結果について
吉岡 敏行ほか（岡山県環境保健センター）
- 3 物理化学的処理によるリン酸エステル系難燃剤の除去
川村 恭平ほか（福井県衛生環境研究所）
- 4 川崎市の水環境中におけるリン酸エステル系難燃剤の実態調査
山根 尚子ほか（川崎市環境総合研究所）
- Ⅲ生物
- 1 尾瀬沼における環境DNAを用いた魚類調査手法の検討
吉野 有希菜ほか（群馬県衛生環境研究所）
- 2 河川における環境DNAメタバーコーディング法と採捕調査による検出魚類の比較
平川 周作ほか（福岡県保健環境研究所）
- 3 シジミのろ水速度と餌藻類の関係について
大柳 まどかほか（滋賀県琵琶湖環境科学研究所）
- 4 シジミ肥満度と餌藻類の関係について
古田 世子ほか（滋賀県琵琶湖環境科学研究所）
- Ⅳ水環境
- 1 工場排水等におけるふっ素の測定精度向上に関する検討
近藤 笑加ほか（三重県保健環境研究所）
- 2 山王川の水質状況と流域の土地利用
木村 夏紀ほか（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）
- 3 印旛沼流域の降雨時における道路排水の流出特性
横山 智子ほか（千葉県環境研究センター）
- 4 印旛沼における水質詳細調査について
星野 武司ほか（千葉県環境研究センター）
- 5 市街地排水中の硝酸イオンの濃度変動
横山 新紀ほか（千葉県環境研究センター）
- 6 八幡川水系ダム湖における栄養塩等の長期調査結果
村野 勢津子ほか（広島市衛生研究所）
- 7 名古屋市内ため池の植生と水質
大畑 史江ほか（名古屋市環境科学調査センター）
- 8 令和元年台風第19号通過後の河川敷堆積物や空間線量率の変化
山崎 琢平ほか（福島県環境創造センター）
- 9 諏訪湖沿岸域における底質性状の実態
柳町 信吾ほか（長野県環境保全研究所）
- 10 窒素面源負荷原単位逆推計手法の開発
古賀 佑太郎ほか（（公財）ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター）
- 11 国環研と地環研等によるⅡ型共同研究を介した水界生態系における環境再生研究の推進
矢部 徹ほか（国立研究開発法人国立環境研究所）
- 12 紀の川水系における農薬残留実態調査
浦西 洋輔ほか（奈良県景観・環境総合センター）
- 13 LC-QTOF/MSを用いた河川水中の化学物質のスクリーニング分析
吉野 共広ほか（神戸市環境保健研究所）
- 14 廃棄物処分場からのPFOS及びPFOAの溶出実態と水処理過程での消失について
亀岡 寛史ほか（（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所）
- 15 埼玉県内河川における流下マイクロプラスチックの特徴
田中 仁志ほか（埼玉県環境科学国際センター）
- 16 栃木県内の環境中に排出される廃プラスチック類に関する調査（第1報）
神野 憲一ほか（栃木県保健環境センター）
- Ⅴ放射線
- 1 石川県における福島第一原子力発電所事故の影響割合について
内田 賢吾（石川県保健環境センター）
- 2 千葉県内のモニタリングポストにおける高線量事例
上治 純子ほか（千葉県環境研究センター）
- 3 福島県内仮置場で使用される保管容器等の長期耐久性評価に係る試験結果について
小磯 将広ほか（福島県環境創造センター）
- 4 公共施設における除染後の効果持続性の確認及び将来の空間線量率の予測
日下部 一晃ほか（福島県環境創造センター）

○VI気候変動

- 1 立山の融雪モニタリングによる気候変動の影響の評価
袖野 新ほか（富山県環境科学センター）
- 2 川崎市内における熱中症による救急搬送者数の状況調査
油座 郁美ほか（川崎市環境総合研究所）
- 3 福岡市における暑熱環境調査
松本 弘子ほか（福岡市保健環境研究所）

3. 開催を終えて

新型コロナの影響により先の予定が見通せない中、本発表会では初となる書面での開催となりました。前例のない状況のため、準備や段取り等に手間取り、関係者の皆様にはご迷惑をおかけしましたこと、お詫び申し上げます。

また、このような状況下にあっても、例年とほぼ同数の演題発表をいただいたこと、そして、積極的な質疑応答が図られたことについて、会員機関の皆様に改めて感謝申し上げます。

本発表会の目的としましては、会員機関の日ごろの研究成果の発表の場のみならず、会員機関同士の交流やネットワークづくりなどが挙げられますが、今回の開催では、直接顔を合わせた交流やネットワークづくりが出来なかったことは大変残念なことでした。

一方で、通常開催では各機関から限られた人数での参加となっておりますが、今回、書面開催とすることで、各機関でより多くの研究者の皆様に研究発表をご覧いただくことができたのは、大きな収穫だったと思います。

次年度は秋田県秋田市での開催を予定しております。新型コロナの状況が今後どう推移していくのか非常に不透明なところではございますが、どのような形での開催となっても、引き続き重要な研究成果の発表、情報交換の場として本発表会がますます発展していくことを祈念しております。